

協会けんぽのレセプトデータを基にした静岡県の抗菌薬の使用状況
—COVID-19 流行下での考察—

全国健康保険協会 静岡支部 名波直治

静岡県立静岡がんセンター 感染症内科部長 倉井華子

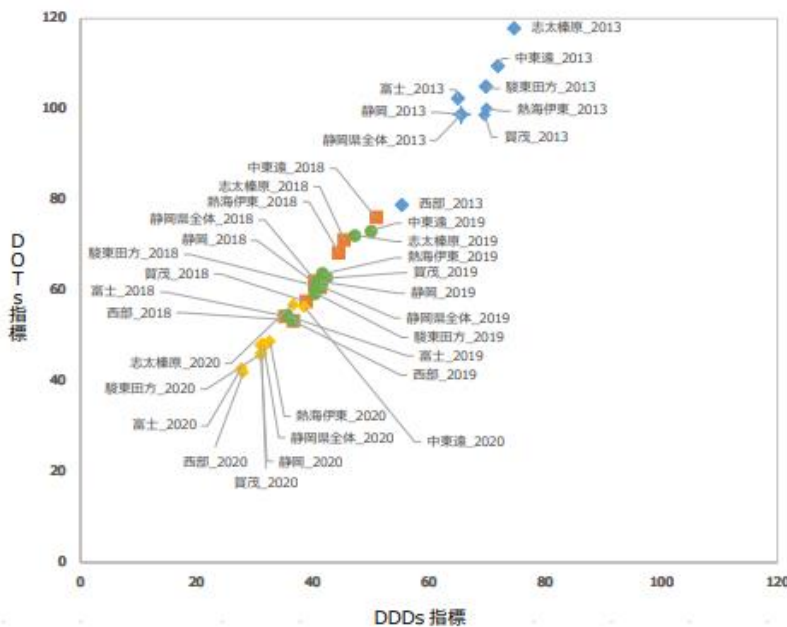
静岡県では、全国健康保険協会静岡支部から、レセプトなどデータ分析による抗菌薬使用に関する情報提供が各施設に送付されています。2021年10月に通報93で静岡県におけるAMR(antimicrobial resistance: 薬剤耐性)の現状を評価しました。今回、COVID-19感染拡大の影響の大きい時期を含めて、考察を行いました。

- DDD: defined daily dose (体重70kgの成人が主な適応症の中等症に罹患した場合に用いられると考えられる仮想的な医薬品量でWHOが定義している)
- DDD指標: 外来患者延べ100人当たりの抗菌薬使用量; 抗菌薬使用密度 (Antimicrobial use density :AUD)とも呼ばれる
- DOTs指標: 外来患者延べ100人当たりの抗菌薬投与日数

県内2次医療圏別にみた抗菌薬使用動向

2次医療圏別に抗菌薬使用をみると、いずれの圏域も2013年度から2018年度の5年間は大きく減少した後、2019年度は、賀茂、富士、静岡、志太榛原の4圏域ではDDD指標が増加しましたが、2020年度は再び全圏域で減少となりました。抗菌薬使用量の水準は、志太榛原、中東遠で高く、一方、西部、富士で低い。この構造は2013年度以降ほぼ変わっていません。特に、西部は2013年度時点において、他圏域の2018年度水準に近い水準にあり、2020年度も、県内で最も低い水準にあります。

静岡県全体で2019年度に前年比増となったマクロライドのDDD指標を2次医療圏別にみると、2020年度は全圏域で減少しているが、中東遠は4時点(2013, 2018, 2019, 2020年度)を通じて常に最も高い水準にあり、2020年度時点では、志太榛原がこれに次いでいます。



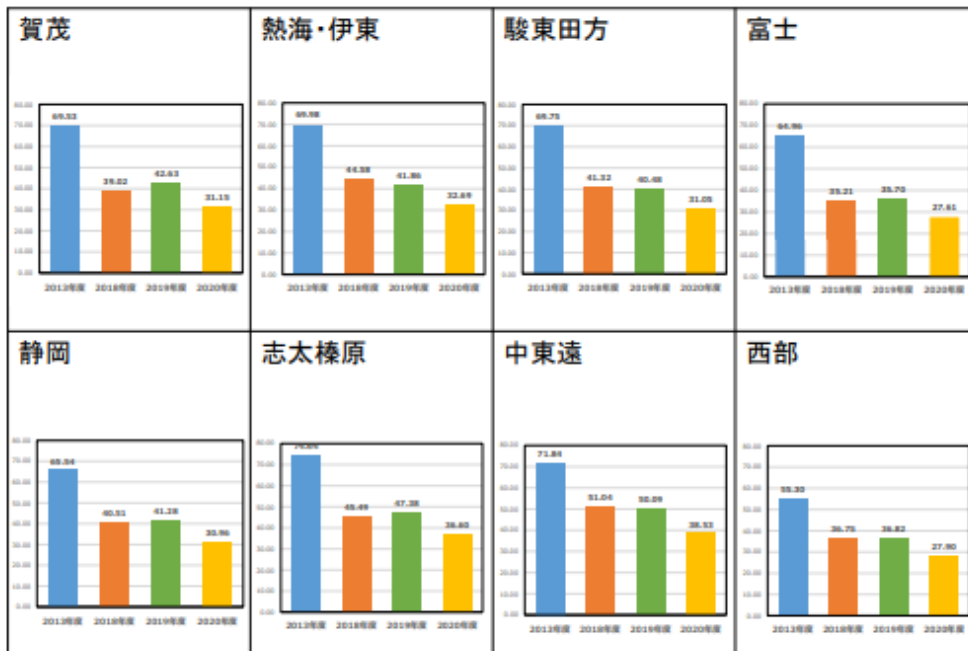


図2 各2次医療圏におけるDDs指標の推移(抗菌薬全体)

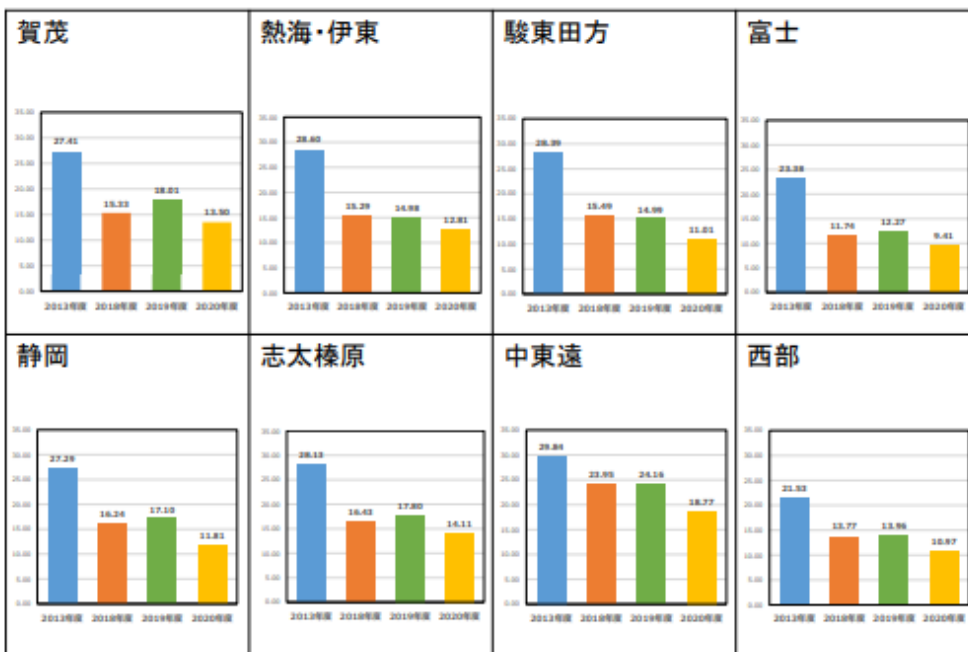


図3 各2次医療圏におけるDDD指標の推移(マクロライド系)
(棒グラフは、左から2013,2018,2019,2020年度)

COVID-19 感染症流行下における抗菌薬使用の状況

コロナ禍で患者減少かつ抗菌薬使用が減少した医療機関 1,544 施設において、コロナによる患者減が抗菌薬使用量を減らしたということだけでなく、患者ベースでの DDDs 指標も、しっかり減少しているかを検証しました。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、呼吸器感染症外来受診者数、抗菌薬使用量はともに減少しましたが、本分析における抗菌薬使用量指標の DDDs 指標については、分子、分母ともに同程度の減少となった場合は、DDDs 指標は変化しない可能性があります。

DDDs 指標の分母となる受診量水準と分子となる抗菌薬使用量それぞれについて、2019 年度から 2020 年度への変化をみると、のべ患者数が減少した医療機関(1,777 機関、全体の 76.7)の大半において(1,544 機関)抗菌薬使用量も減少したが、そのうちの 1,445 機関では DDDs 指標が減少しており、これらの医療機関においては、のべ患者数(分母)の減少変化を上回る抗菌薬使用量(分子)の減少変化、すなわち抗菌薬使用の適正化の動きがあったと考えられます。

		使用抗菌薬力価換算総量/DDD (=分子の変化 (2019→2020))			
		減少	変化なし	増加	計
のべ患者数(分母)の変化 (2019→2020)	減少	1,544	32	201	1,777
	変化なし	2	1	1	4
	増加	298	24	214	536
	計	1,844	57	416	2,317

(医療機関)

のべ患者数減少 かつ 抗菌薬使用量減少	1,544	→	DDDs (AUD) の変化	
			減少	1,445
			変化なし	0
			増加	99

(医療機関)

図 4 DDDs 指標の分母(のべ患者数)と分子(抗菌薬使用量)の 2019→2020 年度変化

患者減少かつ抗菌薬使用が減少した医療機関は 1,544 施設ありますが、このうち 1,445 施設が患者ベースでの DDDs 指標も減少しています。このため、県内における抗菌薬使用量の減少はコロナによる患者減少を要因としたものでなく、患者単位での使用量が減少しているためと言えます。

全国のクリニックのデータがいくつかの県で集まりつつありますが、静岡県が飛びぬけて適正化が進んでいます。こうしたフィードバックを参考に、県内の皆様の抗菌薬適正使用の努力の成果と思います。2022 年度に外来感染対策向上加算の新設、感染防止対策加算の見直しがされました。病院と診療所の連携がより大切になっていますが、こうしたサーベイランスの存在は不可欠です。今後もこうしたデータをもとに抗菌薬適正使用を続けていきましょう。